

[建築基礎 耐震・振動・制御] 正誤表 (初版1刷用)

2002.5.1

頁	箇所	誤	正
v	• SI 単位系	1 N=9.80665 kgf	[N]=9.80665×[kgf]
同		1 kN=9.80665 tf	[kN]=9.80665×[tf]
同		1 MN=0.00980665 tf	[MN]=0.00980665×[tf]
同		1 MPa=0.0980665 kgf/cm ²	[MPa]=0.0980665×[kgf/cm ²]
同		1 MPa=98.0665 tf/cm ²	[MPa]=98.0665×[tf/cm ²]
p 5	上から 8 行目	ウエーキ島	ミッドウエー島
p 5	上から 11 行目	深さ数百[km]消滅する.	深さ数百[km]で消滅する.
p 6	図 1.4(b)の図中	2 の意味の記載なし	2 は断面位置の番号
p 18	下から 2 行目	$\tau \partial u / \partial x$	$\tau = \partial u / \partial x$
p 19	上から 1 行目	$\rho \frac{\partial^2 u}{\partial t^2} = G \frac{\partial^2 u}{\partial t^2}$	$\rho \frac{\partial^2 u}{\partial t^2} = G \frac{\partial^2 u}{\partial x^2}$
同	下から 1 行目	$\left. \frac{\partial f}{\partial x} \right _{x=0}$	$\left. \frac{\partial f_1}{\partial x} \right _{x=0}$
p 23		(3.12)	(3.13)
p 25	図 3.6	せん断波速度 N 値と V_s	N 値とせん断波速度 V_s
同	上から 2 行目	剛性 (E, G 等) に比例する.	剛性 (E, G 等) の平方根に比例する.
p 31	下から 3 行目	$e^{-2\pi h}$	$e^{-2\pi h(t-\tau)}$
p 32	下から 2 行目	(4.1), (4.3)	(4.2), (4.9)
同	図 4.3	(東北大の例で, $h=0.04$ の場合)	((b)は東北大建設系建物の $T_1 \sim T_3$), $h=0.04$
p 33	上から 5 行目	(4.8) と (4.9) 式の関係は	(4.9), (4.10) 式の関係で
同	下から 9 行目	(4.9) 式	(4.10) 式
p 36	下から 3 行目	対応する.	関係する.
p 52	上から 7 行目	Sa	Rt
p 54	下から 5 行目	(A.1.3) 式	式の追加説明 (SI 単位系では 16.1 が 9.1)
P 55	上から 4 行目	1/980[cm/s ²]	1[cm/s ²]
p 57	付表 1.3.1	質量密度の単位の記載なし	g/cm ³
p 57	付表 1.4.1	$(0.16+6T)Z$ $T=0.64$ で 1.6 $T=0.64$ で 8.0	$(0.64+6T)Z$ $T=0.16$ で 1.6 $T=0.16$ で 8.0
p 59	上から 14 行目	複数層	層数 n は地表から工学的基盤までを 1~ n とする.
p 60	上から 6 行目	3)~6) 項	(c)~(f)
p 76	上から 14 行目	(\ddot{x}, \dot{x})	(\dot{x}, \ddot{x})
p 84	上から 7 行目の数式中	$\left(1 + \frac{1}{x}\right)$	$\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x$
p 86	図 7.4 中の θ	ベクトル (a, b) と (a+e, b+f) 間の角度	ベクトル (a, b) と (e, f) 間の角度
p 88	(7.42) 式中	$Z(A + iB)$	$A + iB$
同	(7.43) 式中	$Z^2(A^2 + B^2)$	$A^2 + B^2$
p 91	上から 1 行目	2) 転要ベクトル	2) 転置ベクトル
p 98	(A 8.2.2) 式と (A 8.2.3) 式の中	$[A_1 - B_1]$	$[A_1 - B_1]i$
p 123	(11.38) 式中	$m\ddot{X} = c\dot{X} + kX$	$m\dot{X} + c\dot{X} + kX$
p 126	上から 6 行目	$t' = t - t_1$	$t' = t - t_1$
p 131	上から 4 行目の数式中	$-m\ddot{x}_c(\tau) d\tau$	$-m\dot{x}_c(\tau)$
p 158	下から 4 行目の数式中	1.71+1.71=0	-1.71+1.71=0

頁	箇所	誤	正
p 178	上から 9 行目	若林寛	若林寛
p 181	下から 3 行目	$k_H = k_{H0}A$	$k_H = k_{H0}A_0$
p 182	表 16.1	k_V	k_{V0}
同	上から 1 行目	$k_H = k_{H0}\Sigma A/A_0$	$k_H = k_{H0}\sqrt{A/A_0}$
同	図 16.1	x	u
同	下から 9 行目	$k_H = 0.5k_v, k_R = 2k_v$	$k_{H0} = 0.5k_{v0}, k_{R0} = 2k_{v0}$ (係数 0.5 と 2 は経験的な値)
同	下から 2 行目	$-k_H(u - s_1\theta)$	$-k_H(u - s\theta)$
同	下から 2 行目	s_1 は基礎下の回転中心からの距離	s は基礎底面から重心までの距離
p 183	上から 1 行目	$-s_1\theta$	$-s\theta$
同	上から 5 行目	$-k_H(u - s_1\theta)s_1$	$-k_H(u - s\theta)s$
同	上から 12 行目	K_{HS}^2	k_{HS}^2
同	下から 3 行目	i_0^2 の定義の記載なし	$i_0^2 = I_C/m$ (重心回りの質量分布回転半径の 2 乗)
p 184	上から 5 行目	θ_i	$s_i\theta_i$
同	上から 6 行目の数式中	$-m\ddot{x}_C$	$im\ddot{x}_C s_i$
同	上から 8 行目の数式中	$k_H(z_i - s)^2$	$k_H(s_i - s)^2$
同	上から 9 行目	e_0^2 の定義の記載なし	$e_0^2 = k_R/k_H$ (弾性半径の 2 乗)
同	上から 9 行目	ω_1	ω_i
同	上から 12 行目の数式	$\ddot{\theta}_1 + \omega_1^2\theta_1 = -mz_i\ddot{x}_C/I_i$	$\ddot{\theta}_i + \omega_i^2\theta_i = -ms_i\ddot{x}_C/I_i$
同	上から 15 行目の数式中	$-mz_i\ddot{x}_C/I_i$	$-ms_i\ddot{x}_C/I_i$
同	下から 4 行目	水平、回転の静的バネ定数 k_H, k_R	上下、水平、回転の静的バネ定数 k_v, k_H, k_R
p 185	下から 7 行目	$L^2 = \pi r_e$	$L^2 = \pi r_e^2$
p 189	下から 6 行目 (17.8) 式	$k_b + k_R$	$k_b + k_s$
p 190	上から 2 行目	整理	再掲
同	上から 6 行目 (17.10) 式	$\frac{c_n\theta}{i k_n}$	$\frac{c_n\omega}{i k_n}$
p 195	上から 3 行目	E_0 は地盤の変形 [MN/m ³]	E_0 は地盤の変形係数 [MN/m ²]
p 196	下から 8 行目	3 波	4 波
p 233	下から 7 行目	図 21.12(a) 中	図 21.12
p 234	図 21.12 左側の模式図中	左図の「ST」表示なし	左図の「ST」の表示 (RC の上)
p 256	上から 3 行目	Active Stiffness Variable	Active Variable Stiffness
p 262	上から 11 行目	大きくなる。	大きくなる。
p 289	(25.2) 式の 1 行上	Q_i は, (25.2) 式で……	法の Q_i は, (25.2) 式で……
p 290	下から 13 行目	四国紀伊水道側	四国, 但し紀伊水道側を除く
p 298	下から 6 行目	$R_s = \gamma s \sqrt{\gamma s}$	$R_s = \gamma s / \gamma s$
p 298	下から 3 行目	$\sqrt{\gamma s}$	γs